

# 学内六報

2023.7.25

no.1572



第38回全日本学生選手権個人ロードレース大会で優勝した自転車部競技班の篠崎蒼平選手（写真：深井文浩）



学生有志がGX推進イベントを駒場で開催

## UTokyo Sustainability Week 2023

鉱物資源の過去・現在・未来をつなぐミュージアム

## “ミネラフロント”開館



学生有志がGX推進イベントを駒場で開催

# UTokyo Sustainability Week 2023



6月5日～9日、UTokyo Sustainability Week 2023が駒場で開催されました。学生団体のUTokyo Sustainable Network(UTSN)が主催し、未来社会協創推進本部のGX推進分科会と3つの連携研究機構\*が共催を、そして東大生協が後援を務めたGX推進イベント。学生と教職員と大学生協が三位一体となって創り上げた5日間を振り返ります。

\*気候と社会連携研究機構(UTCCS)、エネルギー総合学連携研究機構(CROCES)、未来戦略LCA連携研究機構(UTLCA)

## ウォーターサーバースタンプラリー

給水スタンドにはウィーク周知のポスターが。

UTSNメンバー作成による駒場給水地マップ。

昨年の福島産直フェア時に51円で提供されたあおさの味噌汁がスタンプラリーの景品に。

大豆ミートを使用したNEXTキムチカルビ丼(550円)。

生協食堂には千葉県銚子漁協とのコラボメニューも登場。100gあたりのCO<sub>2</sub>排出量見える化の試みも。

駒場と本郷の両書籍部にUTSNメンバーのコメントのついた推薦図書棚が登場。

## 期間限定メニュー(生協食堂)

## 生協書籍部で関連ブックフェアも!

## テーマはFood & Drink

5日間の通しテーマとして設定されたのは、Food & Drink。身近なところからサステナビリティを考えられるようにという思いで選ばれたもので、全学生が前期課程を過ごす駒場を舞台に、食にまつわる様々な企画が行われました。

まずはウォーターサーバースタンプラリーです。UTSNの提案を発端にキャンパス各所に設置された給水機の周知と利用を促すため、5月29日から17カ所にスタンプを用意し、台紙に5つ集めれば駒場生協食堂であおさの味噌汁を無料でゲ

ットできるというものでした。

このあおさは、2022年3月に本学が包括連携協定を結んだ福島県の産。昨年11月に福島産直フェアを実施した東大生協の中島達弥専務理事は、「農学生命科学研究科国際水産開発学研究室に分析してもらったところ、あおさのCO<sub>2</sub>排出量が今回LCA\*を計算した食材の中で最も少なかった」と語っています。生協食堂ではほかにも、ラーメン、ねぎとろ丼、鶏天といったあおさ活用メニューを5月29日～6月2日に特別提供。6月5日～9日には畜産に比べてCO<sub>2</sub>排出が少ない魚や大豆ミート(NEXTミート)を使った料理を

\* Life Cycle Assessment

提供し、特にNEXTキムチカルビ丼はヴィーガンでない人にも好評だったそうです。

## 生協の購買部・書籍部も連動

書籍部にはUTSNメンバーが推薦したサステナビリティ関連書の棚が設けられ、購買部にはサーモボトル、マイバッグ、エコ文具などが並ぶ棚が登場しました。給水機の場所を図示したサーモボトルはUTSNがデザインしたもの。ヴィーガンメニューを購入した人に抽選券が配布され、ボトルが当たる抽選会が最終日に実施されました。大学生活でのGXを考えるのに生協の協力は不可欠なものでした。

# UTokyo Sustainability Talks



2日目に行われた亀山康子先生の回の様子。



UTSNのハンリアさんと渡部雅浩先生。懇親会では東大生協によるコーヒーと軽食の提供も。



3日目に行われたワークショップ。2050年のキャンパスの姿が淡青色の模造紙に描き込まれました。



## UTokyo Sustainability Talks 登壇者一覧

**Day 1** / 五十嵐圭日子(農)、AKINDELE Tito(GlobE)、左右田智美(生研)、PULIDO Jesus(GlobE)、横張真(工)、吉田丈人(農)、香坂玲(農)、MORENO-PEÑARANDA Raquel(GlobE)、小松崎俊作(工)

**Day 2** / 渡部雅浩(大海研)、石原広恵(新領域)、亀山康子(新領域)、DROZ Layna(新領域)、菊池康紀(未来ビ)、TAVARES VASQUES Diego(理)、GIRAUDOU Isabelle(総文)、佐藤みどり(総文)、岩田忠久(農)

**Day 4** / 平尾雅彦(先端研)、杉山正和(先端研)、木見田康治(工)、GRANDI-NAGASHIRO Cecilia(新領域)、栗栖聖(工)、橋本禪(農)、竹内渉(生研)、GASPARATOS Alexandros(未来ビ)、BERMAN Naomi(GlobE)

**Day 5** / 藤井輝夫(総長)、大久保達也(理事・副学長)、中島達弥(東大生協)、HAN Leah(総文)、山口大輝(工) & PATKI Mahi(教養)、AGRAWAL Vedant(教養)、SOUNDARARAJAN Swetha(教養)、DREWS Charlotte(教養)、板谷舞華(教育)、中谷優太(工)、秋山知也(文)、山口空(農)、別木苑果(教養)、杉山昌広(未来ビ)



駒場の畑だから Koma-batake。北門近くの温室周辺で有機農法の野菜作りが行われています。



## 駒畑ハーベスト&種まきフェスタ

## オリジナルデザインボトルの抽選会も!



## 駒場図書館での展示も!



最終日には、未来社会協創推進本部 GX推進分科会学生 GXインシアティブのメンターを務める杉山昌広先生から「GX学生ネットワーク」の発足が発表されました。



※ボトルは生協で販売中(3300円)

そして、サステナビリティに関わる教員と学生総勢50名がKOMCEEのホールで連日プレゼンターを務めた大型企画が、UTokyo Sustainability Talksです。各回のテーマは順に「Local Action」「Global Perspective」「Reimagining Sustainability」「Power of Individuals」「UTokyo GX」。共催の3つの連携研究機構(UTCCS、CROCES、UTLCA)に参画する研究者を中心とする約30名が、各々10分間という短時間で自身の専門分野の視点からサステナビリティについて語り、質問に応じ、参加者同士の懇親会も行うものでした(3日目は未来の大学の姿を考える学生ワー

クショップ)。「10分の講演は聞きやすい」「分野の違う先生と交流できてうれしい」「2時間で10人もの話を聞けるのが貴重」といった声が寄せられていました。

## 駒場の畑でニンニクを収穫

4日目には駒畑ハーベスト&種まきフェスタも行われました。北門近くの駒畑は、UTSNが主体となって古い温室をコミュニティガーデンとして再生させる試みの本拠地で、留学生と日本人学生が農作業をともにしながら活動しています。この日は、学生たちが育ててきたニンニク&タマネギをそれぞれ段ボール箱いっぱい

いに収穫。若干小ぶりのため生協食堂で使われることにはならなかったものの、希望する参加者に配布されました。

最終日、全企画の最後に登壇したのはUTSNの別木苑果さん(教養学部4年)。5日間を振り返り、「今回は駒場でしたが、この動きを他キャンパス、他大にも広げたい」と語りました。準備を進めるなかで「教職員や生協の皆さんのなかにも熱い方々がたくさんいるとわかったのが大きな実りでした」と続け、全学を巻き込んだ初の試みをしっかりと締めくくりました。学生有志ががんばって蒔いた共創の種。水を絶やすわけにはいきません。

鉱物資源の過去・現在・未来をつなぐミュージアム

# “ミネラフロント”開館



MINERAFRONT

5月13日、本郷キャンパスの工学部3号館4階に鉱物資源フロンティアミュージアム“ミネラフロント”が開館しました。工学系研究科と千葉工業大学が共同で開設したこの博物館。SITE 1とSITE 2の2部屋に分かれた展示室には、日本刀のような美しい結晶から鉄隕石まで、鉱山、深海、そして宇宙からもたらされた貴重な鉱石鉱物標本400点以上が展示されています。企画、運営を担当している工学系研究科の大田隼一郎先生に話を聞きました。

博物館名はミネラルとフロンティアを掛け合わせた「ミネラフロント」。鉱山や深海というフロンティアを開拓した人々の努力によって、素晴らしい資源を手に入れることができ、社会が作られてきたという意味を込めたそうです。



大田隼一郎

工学系研究科附属エネルギー・資源フロンティアセンター 講師

展示室はSITE 1とSITE 2の2部屋。平日10時～17時に開館のSITE 1では、大田先生が有人潜水調査船「しんかい6500」に乗り込んでレアアース泥を採取した際の映像も見られます。より貴重な石が展示されるSITE 2は不定期で月2回程度の開館（詳細はこちら→ <https://minerafront.jp/news/>）。黒基調の展示室デザインは総合研究博物館が担当しました。ミュージアムの設置は加藤泰浩工学系研究科長の長年の願いだったそうです。



## 海と宇宙がこれからの資源フロンティアになる

——展示室を開館した背景は？

地質活動が活発な日本にはかつて、金、銀、鉄、銅亜鉛、鉛などの鉱山が各地に存在していました。江戸時代には、「山師」という今で言う地球学者が山に分け入り、それらの鉱床を発見してきました。だからこそ、鉱山が開発され、日本が近代化できたという歴史があります。その後、安全性やコストなどの問題から次々と閉山し、現在操業しているのは鹿児島県にある菱刈<sup>ひしかり</sup>鉱山と赤石<sup>あけし</sup>鉱山だけです。今後の資源研究を担う次世代を育成するためにも、子どもや学生に日本には鉱山資源があるんだということを知ってもらいたい、各地から集めた貴重な石を見てもらおう場所をつくりたい、という思いがありました。

——展示されている鉱石鉱物標本にはどのようなものがありますか？

鉱山で働いていた方々から寄贈していただいたり、私たちが研究用に採取し保存してきたものを展示しています。例えば、兵庫県の中瀬鉱山から採れた自然金。通常、金は金銀鉱石として黒いバンド状になっていますが、これは金の粒子がそのまま見えます。非常に珍しく、アメリカのスミソニアン博物館にも展示されています。静岡県の河津鉱山で発見されたテルル石は、鉱物界では非常にレアなものとして知られています。

——展示室では深海と宇宙の資源も紹介されていますね。

日本の最東端として知られる南鳥島周辺の海域には、レアアース泥が膨大に存在してい

ます。陸上で採掘するレアアースにはウランなどの放射性物質が含まれますが、海のレアアースにはほとんど含まれません。また南鳥島周辺海域には固有種がないことが分かっています。放射性物質処理の問題や生物的影響がほとんどないということで、資源を採掘するには理想的な場所なのです。

## 鉄の供給源としての小惑星！

宇宙からの資源としては地球に落下した鉄隕石を展示しています。鉄は海ではなかなか採れません。陸上でも限界があります。では次はどこなのか。それが宇宙です。宇宙には巨大な鉄の塊が小惑星として存在しています。例えば直径3キロの小惑星から、今までに人類が使用した鉄と同等の量を採取できます。また、地球上で鉄を採ると酸化物になっているので、石炭などを使って二酸化炭素を大量に排出しながら精錬する必要があります。鉄隕石は鉄そのものなので、精錬しなくていいという利点もあり注目されています。

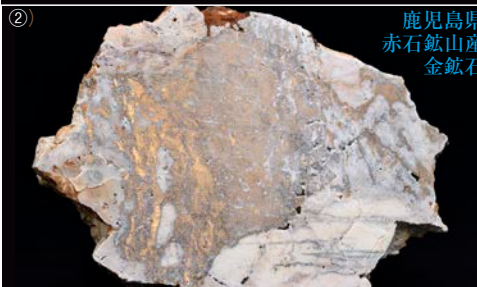
——オープンから1か月ほど経ちましたが、反応はどうですか？

Twitterなどで話題になったようで、問い合わせもたくさんいただいています。今後は実際に石に触れてもらえる機会を設けたいと考えています。8月20・21日には「自然に学ぶみんなの学校」という小学生を対象にした体験教室で、蛍石を加熱して発光させる実験をしたり、顕微鏡で観察したりといったことを予定しています。昔鉱山を開発した人たちが採った素晴らしい標本を見てもらって、今の資源フロンティアと未来の資源フロンティアに興味をもってもらいたいです。

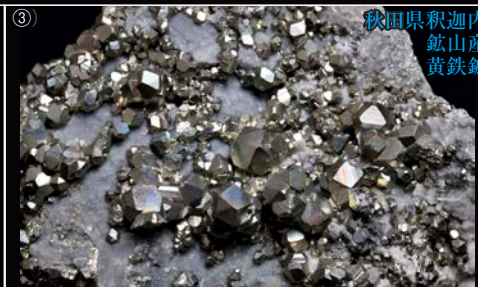


青森県尾太鉱山産菱マンガン鉱

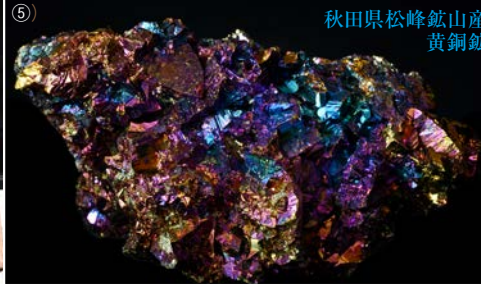
①青森県の尾太鉱山から採掘された菱マンガン鉱。ピンク色と粒状の表面が目を引き菱マンガン鉱は収集家に非常に人気が高いそうです。②ミネラフロントで最も価値が高いと目される金鉱石は鹿児島県の赤石鉱山から。③光沢のある黄鉄鉱は鉄と硫黄が結びついてできた硫化鉱物。④栃木県の足尾鉱山から採れた鉱物標本。クジャク石、方解石、水晶、黄銅鉱など。⑤極彩色の黄銅鉱。酸化すると青や紫、黄色といった色に変化します。⑥鉱物の多くは化合物ですが、自然銀は酸化していない元素そのものです。⑦輝安鉱は世界的にも有名な日本刀のようにみえる結晶です。プラスチックの難燃剤などに使用されています。⑧南鳥島周辺の海底から採取したレアアース泥を精錬して蛍光体を作り、それをガラスケースの中に入れました。名付けて「南鳥島の光」。⑨レアアース泥に大量に含まれている魚の骨の化石。化石になる過程で海水からレアアースを濃集します。⑩鮮やかなエメラルド色の部分がプロシャン銅鉱。銅鉱床の酸化帯にできます。⑪岐阜県の神岡鉱山から採掘された亜鉛の硫化物。かつて、銅、亜鉛、銀が採れた神岡鉱山内では、現在ニュートリノの性質を解明するための実験が行われています。世界最大の水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置・スーパーカミオカンデは、鉱山内の地下1000mに設置されています。⑫超高濃度レアアース泥が発見された南鳥島周辺の日本の排他的経済水域海底に10mくらいのパイプを突き刺して採取した堆積物コアのレプリカ。1mくらいに切断したものをさらに縦半分に分割しています。⑬愛媛県の別子銅山産の縞状銅鉱石。およそ1億5千万年前の海での熱水噴出活動でたまった銅や金属の塊です。プレートの運動によって徐々に移動し、日本列島の陸上に現れました。



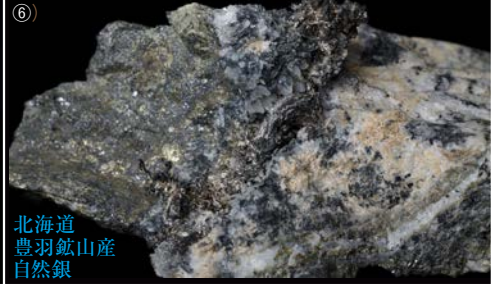
鹿児島県赤石鉱山産金鉱石



秋田県秋田川内鉱山産黄鉄鉱



秋田県松峰鉱山産黄銅鉱



北海道豊羽鉱山産自然銀



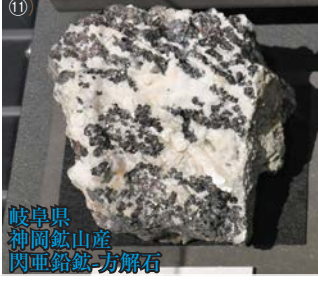
愛媛県市ノ川鉱山産輝安鉱



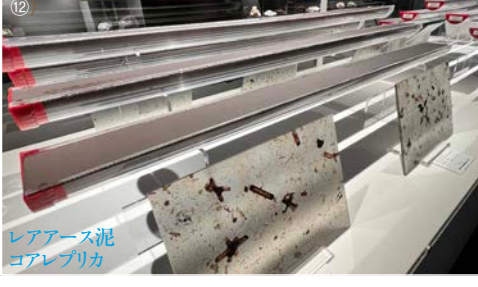
レアアース泥コアレプリカ



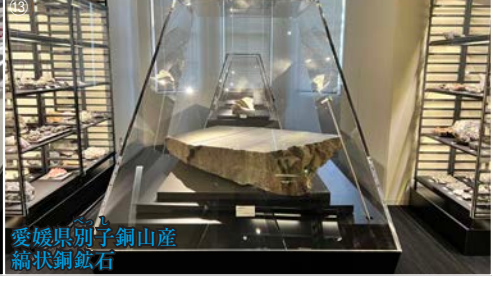
秋田県尾去沢鉱山産プロシャン銅鉱



岐阜県神岡鉱山産閃亜鉛鉱方解石



レアアース泥コアレプリカ



愛媛県別子銅山産縞状銅鉱石

教養教育の現場から

第58回

## リベラル・アーツの風

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学の構成員に知っておいてほしい教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

## 前期教養教育の一環としてのD&amp;I授業

／講義科目「人種とジェンダー」「フェミニズム科学論」

**福永** 4月発足の当部門の任務はKOSS<sup>※1</sup>の運営と前期課程のD&I関連授業の提供で、後者を担うのが私たちです。部門長の清水晶子先生の下で活動しています。

**飯田** 初年度は講義科目と自由演習科目の計12科目を展開しています。講義科目で基礎的な知識を学び、より専門的な関連事項に関して、ゼミ形式でディスカッションを行いたい学生には自由演習科目を、という設計です。

**福永** 私を含めてジェンダー・セクシュアリティ分野の研究者が多いですが、障害学や他のマイノリティや差別・権力の問題も関連づけながら学んでもらいます。

## フェミニズムから科学を読み解く

**飯田** 私の授業<sup>※2</sup>はフェミニズムと科学論を関連づけて考えるものです。女性科学者がいかに知の生産に携わってきたか、フェミニズムの視座からの「客観性」概念の問い直しや、エイズ危機に見られるような感染と他者化をめぐるメタファーの問題、科学の「怪物性」など、幅広いトピックを論じます。AI、生殖技術、人新世といった日頃見聞きする話題について、科学とジェンダー・セクシュアリティ

の関わりから学生が自分で問いを立てる契機にしてほしいと思っています。

**福永** 私の授業<sup>※3</sup>では、人種差別と性差別という二つの権力を繋げて考えます。東アジアの歴史的な文脈の中で両者はどんな問題を起こしてきたのか。一つの重要な事例として「慰安婦」問題を扱います。多くの学生が偏った知識を持ち、問題自体を否定するような情報を取り込んでいます。歴史学の知見を説明しても週刊誌の記事を根拠に嘘だと主張する。こうした状況がなぜ当たり前になったのかを考える上では、性差別だけ見ても足りません。植民地主義と性差別が交差する権力の下で「慰安婦」制度が作られた歴史があり、その複雑な状況を単純化せず複雑なまま理解する視点を持ってほしいのです。当初、受講者は多くて100人程度かと予想していましたが、結果は約300人。D&I授業のニーズは高いと実感しました。

**飯田** 私の授業も当初は30人程度と予想しましたが、約100人が受講しています。将来の専門分野とは違っても重要と感じるテーマを前期課程の時点で学んでおこうという思いがあるのかもしれませんが

**福永** 他大でジェンダーの授業を行うと

D&I部門  
准教授 福永玄弥  
特任講師 飯田麻結



女性の受講者が多いですが、東大の授業では男性が7割ほど。フェミニズムに対して挑発的な人も一定数いて、そういう学生とどう向き合うかは難題です。挑発はマイノリティの学生にも向かってしまうため、教員がある程度強く言わないと安全が担保できません。でも強く言いすぎるのも問題で、その塩梅がとても難しい。東大ならではの状況と言えそうです。

## 「割合的にはどれくらいですか?」

**飯田** だからこそD&Iの授業を行う意義があるのだとは言えるかもしれません。

**福永** 男子が多数の大学で女子学生が困っている事例を紹介すると、毎回出る質問が「それって割合的にはどれくらいですか?」です。少数派の困難に目を向ける意義を認めず、マイノリティの主張を根底から覆そうとする。これほどひどいとは思いませんでしたが、授業を続けることがD&Iに繋がると信じて教えていきます。

**飯田** ここまで授業を進めてきて、学生の葛藤の過程が少し見えてきたのは収穫です。私たちの授業が今後の大学生活に重要となるクリティカル・シンキングの実践に繋がれることを期待しています。

## ※2 「フェミニズム科学論」の内容(予定) ※3 「人種とジェンダー」の内容

※2 「フェミニズム科学論」の内容(予定)	※3 「人種とジェンダー」の内容
イントロダクション	イントロダクション
科学史における女性	ネーション、エスニシティ、ナショナリズム
科学革命と科学のパラダイム	(人種)の構築とレイシズム
「ジェンダー化」される科学	近代社会と性政治
「怪物」の表象と科学知・SF	帝国主義・植民地主義 (1)
科学とメタファー: エイズ危機と「感染」の政治	帝国主義・植民地主義 (2)
客観性とは何か?: スタンドポイント理論から「状況に置かれた知」へ	「寛容する帝国」の誕生
ダナ・ハラウェイ再考	「慰安婦」問題 (1) 映画鑑賞
(教材視聴) Donna Haraway: Storytelling for Earthly Survival	「慰安婦」問題 (2) 日本軍性奴隷制度とは何か
デジタル・テクノロジーとフェミニズム: エンボディメント概念	「慰安婦」問題 (3) 「慰安婦」問題と右派のバックラッシュ
フェミニズムと量子力学?: 物質性をめぐる問い	歴史否定論/歴史修正主義を批判する
人新世とフェミニズム	フェミニズムとインターセクショナルリティ
科学の亡霊とデジタル・アーカイブ	脱帝国主義あるいは東アジアの〈和解〉のために



- ① 駒場101号館のD&I部門室は6色のレインボーフラッグが目印。
- ② 4月16日に行われたD&I授業立ち上げ記念シンポジウムポスター。
- ③ 部門のホームページはこちら  
→ <https://www.utdandi.org>



※1 駒場キャンパスSaferSpace (本誌156号参照)

# いちょうの 部屋

学内マスコット放談



## 今回のゲスト カモシカくん

秩父演習林マスコット

ウシと同じく角は生え替わらず。好奇心旺盛で、人と出くわすと凝視しがち。「10万円の寄付で記念樹に銘板が設置できる「東京大学の森」育成資金をよろしくです！」

いちょうくん シカなの？ ウシなの？ それともカモ？  
カモシカくん 国の特別天然記念物で、正式にはニホンカモシカです。ウシの仲間ですが、かなり敏捷で崖や岩場も得意ですよ。2002年にニュースレター「かもしかだより」を出す際、当時の石橋整司林長の発案を機に、絵が得意なご家族の手で生み出されたんです。  
い スラッとした美脚を「カモシカのような脚」とか言うけど、キミの脚は結構がっしりしてるよね？  
カ その昔、脚が細長いインパラやガゼルなどを総称するレイヨウ（羚羊）との混同があったみたいです。  
い いい迷惑だね。過去、どんな活動をしてきたの？  
カ 2006年発行の冊子\*では表紙を飾りましたね。木の直径を測る輪尺を手に、伐倒を告げる笛を下げ、「安全第一」の職も抱える晴れ姿でした。演習林全体の広報誌にも出だし、「影森祭」の広報係も務めましたよ。2005年から14回開催した市民参加イベントで、演習林で間伐した竹で門松を作ったり、端材で干支の動物を作ったり、影森苗畑産そば粉を使ったそばがきや地元のエノシシを使ったしし汁を振る舞ったり。  
い 楽しそう！ポストコロナで復活してほしいな～。  
カ その影森祭も含め、演習林の活動で不可欠なのが、2004年発足のボランティア組織「しおじの会」です。  
い 塩爺？ ごま塩頭のじいさんの会？  
カ いえ、しおじは秩父を代表する木です。ガイドツアー、作業道やモノレールの路線巡視など、幅広い活動で演習林を支えるのが会の皆さん（約25名）です。  
い なんと、モノレールもあるの!? 人も乗れる？  
カ もちろん。3路線あって、一番長いバケモノ沢モノレールは終点まで約45分です。始点と終点の標高差は500m。秩父の森は急峻で、林道より軌道を整備する方が環境にも優しいんです。標高の大きさが多様な植生を育み、たとえばカエデは日本の在来種28種中20種も確認されています。演習林のワザビ沢展示室では、その全種類の写真や標本を紹介していますよ。ツキノワグマやイタチなど秩父にいる哺乳類の剥製標本もあり、中には平将門伝説で知られる大血川で餓死したらしいボクの仲間の剥製も……。  
い カモシカくんは長生きして！



ぐいぐい登るモノレール！



林内で目撃されたニホンカモシカ（仔）

\*「科学の森たんけん7 森の身体測定」(秩父演習林広報委員会、定価300円)

# #WeChange Now

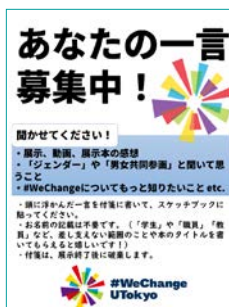
第2回

男女共同参画室通信

## #WeChange@総合・駒場図書館

今回のコラムでは「UTokyo 男女\*協働改革#WeChange」の図書館展示とGENKI BOOKSについて紹介します。

#WeChangeについてより多くの方々に知っていただくために、総合図書館3階“Shelf of Wonder”のコーナーで展示を行っています（～8月中旬予定）。#WeChangeだけではなく、総合図書館所蔵のジェンダー関連の図書や、男女共同参画室専任教員と2023年度学術フロンティア講義「ジェンダーを考える」をご担当いただいた先生方の著書、東京大学の男女共同参画関連の資料やデータ、内閣府の男女共同参画週間（6月23日～29日）の紹介をしています。また、「あなたの一言聞かせてください！」のコーナーも設置しています。付箋には「グラフを見て女性の少なさを改めて実感……東大がんばれ！」や「社会における女性の生きづらさへの【なぜ?】の思考を持つ人が増えてほしい」などの声が寄せられています。ぜひご意見・ご感想を聞かせてください。



また、駒場図書館では1階のGENKI BOOKSのコーナーの一角にポスターを掲示させていただきました（～7月中旬まで）。展示やポスター掲示を機に、#WeChangeロゴや施策がより多くの方々に認知していただけますように……！

さて、みなさんはGENKI BOOKSをご存じでしょうか？ GENKI BOOKSの“GENKI”は“Gender Equality: No-nonsense Knowledge and Information”の略称で、2010年度から駒場図書館ではじまりました。ジェンダーに限らず、障害関連やその他マイノリティに関する図書もあります。GENKI BOOKSは東京大学OPACで【詳細検索】→【文庫区分】



→【GENKI BOOKS】で検索することもできますので、みなさんぜひチェックしてお気に入りの1冊を探してみてください。（特任研究員 安東明珠花）

<https://wechange.adm.u-tokyo.ac.jp/ja/>

## ワタシのおシゴト 第206回

RELAY COLUMN

研究推進部 フィーガン・ジェームス  
国際研究推進課

## 国際化の第一歩を英語力でなんとか

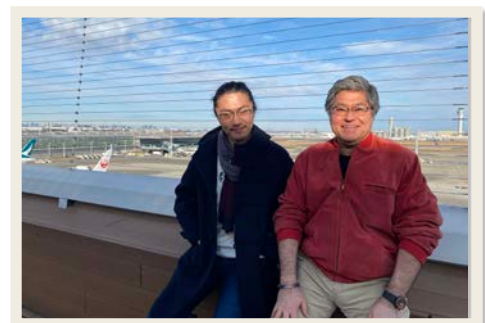


事務所で

リーマンショックによるリストラ後、イギリスから2009年に帰国し、2011年12月に当時の本部国際企画課で特任専門職員として採用されて以来、経営企画部国際戦略課、研究推進部国際研究推進課と部署名は変わりましたが、「ワタシのおシゴト」はそれほど変わらず早12年、主に本部で作成された英語資料のネイティブチェックをしています。

コロナ禍の影響で海外からの来訪が減りビデオメッセージの要求が増え、いつの間にかビデオ撮影・編集も業務の一部になっていました。その他には大学連関係、SGUの戦略的パートナーシッププログラムにも関わっています。

本部職員の英語レベル又は翻訳ソフトの質が向上しているせいか、昔ほど資料に対しての笑い・ツッコミ・泣きも減ってきているような気がします（あるいは、感覚が鈍くなってしまったかもしれません）。



3年ぶりにカナダから帰国した息子と羽田にて

得意ワザ：周りを巻き込みながら仕事をする  
自分の性格：Pessimist with an eternal smile  
次回執筆者のご指名：相澤美紀さん  
次回執筆者との関係：本部事業を通して  
次回執筆者の紹介：仕事をまかせられるしっかりとした方

専門知と地域をつなぐ架け橋に

FS Field Study レポート!

第25回

2022年度FS

福島県南会津町担当チーム

## 南会津町の温かさに触れる1年間

私たちは、FSにて福島県南会津町を担当し、空き家の利活用をテーマに1年間取り組んできました。チーム内での打ち合わせ、町の方との打ち合わせ、2回の現地調査を経て、空き家という全国的な問題を考えるとともに、南会津町自体に大きく思いを寄せるようになったと思います。

第1回現地調査は、南会津の魅力体験。まずは南会津がどんな町なのか私たち自身が理解することから始めました。たくさん場所を訪れましたが、やはり一番の魅力だと感じたものは南会津に暮らす皆さん。特に糸沢区の皆さんは、昔の出来事や地域のことをたくさん話してくださり、南会津が私たちにとっても身近な存在になりました。



第1回現地調査・糸沢区の皆さんとの意見交換会

第2回現地調査は、空き家問題の現状把握と地域の方との交流を実施しました。空き家問題については役場の関係者等との意見交換で、損傷が大きく居住困難な空き家の解体が課題だと分かりました。地域の方とは蕎麦打ち体験等で交流した後、南会津町の未来について意見交換を行いました。訪問の最後に、今まで何った課題を踏まえ、提案をしました。

空き家課題に対し「除却」と「活用」という二点から提案をしました。除却に関しては、除却の準備金を積み立てる制度や地域住民の密接な関係を活用した除却を提案しました。活用に関しては、南会津町の魅力である伝統文化や伝統料理を体験できる場としての活用や、地域外の人に対しての発信・交流の拠点としての活用を提案しました。具体的には農家民泊などがあり、これは地域の活性化や伝統の継承にも繋がると考えました。

1年間の活動を通して、南会津の方の温かさを深く感じるとともに、空き家問題をはじめ、地域での課題の重大さを感じることができました。南会津町と関わった1年間の活動は、強く心に残るとともに地域課題を考えるにあたって重要なことをたくさん教わったと思います。最後に町の方、大学の方をはじめ活動を支えてくださった皆さまに御礼申し上げます。

※メンバーは嶋田隼士（法4年）、高妻暉宙（法3年）、廣瀬穂岳（文一2年）、浦山真依（文三1年）、増村莉子（文三1年）（学年所属は2022年度当時）



# インタープリターズ・第191回 バイブル

生産技術研究所 / 情報学環 教授  
科学技術コミュニケーション部門

大島まり

## 植物の発するメッセージ

植物に話しかけると良く育つ。このような言い伝えを聞いたことはあったが、言葉を発しない植物が人間の思いを理解できるなんてあり得ないと思っていた。しかし、そのような考えは間違っているのではないかと、最近、思うようになった。

四年前に母が脳梗塞で倒れた。その後、回復したが、かつてのように動くことが難しくなり、家にあった木や花の手入れがおろそかになっていた。そのまま放置するのであれば、処分した方がよいかとも考えたが、母が手塩にかけて育てた花を捨てるのは忍びない。かと言って、花の手入れは、小学校の夏休みの宿題だった朝顔の栽培以来。そこで、まずはと、水をあげ始めた。そうすると、茶色にくすんでいた植物が、元気な緑色になってきた。気のせいかな喜んでいるようにも見えて、しっかりと面倒を見てあげないといけないな、と思うようになった。そして、花が元気だと、母も元気でいてくれるとの思いもあったりした。

今では、インターネットで剪定や育て方を調べ、せっせと面倒をみている。花の中でも、バラはとてもデリケートで、すぐに虫がつくし、枯れやすい。出張や忙しい時には水をあげるのが難しいため、インターネットで水やり器を買って設置した。園芸用の機器も色々あり、植物の種類や病気に応じた薬や肥料も様々あり、その奥深さに驚くことが多い。昨年、バラの害虫被害がひどく、冬の間は葉っぱも落ちて、きちんと花が咲くのかと大変心配だった。土を入れ替えて肥料もあげたら、なんと新しい芽も出て、写真にあるようにこの5月にきれいなバラが無事に咲いた。

植物は言葉ではなく、何らか別の形でコミュニケーションをし、私たちの思いを理解しているのではないかと感じる。近年、土砂災害など自然災害が増え、地球温暖化対策もあまり進んでいないように見える。私たちは植物の発するメッセージを受け止めてあげているのだろうか。



科学技術インタープリター養成プログラム  
<https://scicom.c.u-tokyo.ac.jp>

# ききんの

寄付でつくる東大の未来

第45回

社会連携本部渉外部門  
副部門長

高橋麻子

## 研究の魅力を伝えるには

東京大学基金では、研究プロジェクトや部局基金への寄付を募っています。その数は運動会なども含めて160を超えています。これだけ多くのプロジェクトがあると、良い研究良い活動を示すだけでは、残念ながら寄付は集まりません。より多くの方に知ってもらうために、どうやって魅力を伝えるか。ファンドレイジングでは、プロジェクトの共感を得るアピールポイントを“ACTION（アクション）フレームワーク”を用いて整理する手法があります。学術研究プロジェクトの場合に当てはめて紹介します。

**Attention（注目）**：はっとするもので注意を惹きつけましょう。目にとまる写真やビジュアル、記憶に残るキャッチコピー、そうなんだ！と驚く数字など、まずは立ち止まって見てもらうために。トップビジュアルに研究者や学生の顔が見えるとぐっと親近感が湧きます。

**Change（変化）**：この研究が進むことでどんな未来が描けるのか。変えたい、作りたい未来を伝えることで、そのチャレンジの歩みを一緒に経験したいと思う寄付者が現れます。

**Trust（信頼）**：いざ寄付をしようかと考えたとき、このプロジェクトは無事に進んでいくのか？の心配がよぎります。これまでの実績や今後の計画がきちんとなされていることを伝えましょう。

**Imagination（想像）**：研究にまつわる物語（ストーリー）を紹介することで、シーンの想像を通じてより共感が深まります。例えば「小児がん研究が進むことである8歳の女兒が回復して退院した」など。また成功体験だけでなく、失敗や挫折、乗り越えた経験などが見えることでも、研究や研究者を身近に感じ応援したいという気持ちが生まれます。

**Only One（オンリーワン）**：研究の一番なところ、オリジナリティの部分を知りやすく伝えましょう。世界初、日本一、業界ナンバーワンなど。過剰な表現は必要ありませんが、どの研究にも必ず“ならでは”のものがあはす。

**Network（ネットワーク）**：応援はみんなで集まると楽しいし安心するものです。研究者との繋がりだけでなく、応援者同士によるネットワークの広がりや仲間感を感じられるようなコミュニケーションと関係性を作り出すことで継続的な支援にも発展します。

研究の紹介と言えついで堅い表現になりがちですが、上記のポイントを意識してテキストを考えると、ぐっと魅力が引き出され、寄付につながる“ファン”ができるはず。ぜひチャレンジしてみてください！

東京大学基金事務局（本部渉外課）  
[kikin.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp](mailto:kikin.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)

**トピックス** 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles)に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル (一部省略している場合があります)
6月14日	本部学生支援課	ヨット部ディンギー班が全日本学生ヨット個人選手権大会への出場権を獲得!
6月16日	広報室	自然に学び、持続可能な社会をつくる 環境問題に取り組むための教育と社会活動
6月20日	本部学生支援課	東大アメフト部が7年ぶりに双青戦(京大戦)で勝利!
6月20日～7月11日	広報室	極地の氷が解けると日本も水没しちゃうってホント?→羽角博康   シェアリングって本当に環境にいいの?→栗栖 聖   長い目で見れば地球は寒冷化するってホント?→木野佳音   大気中のCO <sub>2</sub> を資源に変えられるってホント?→杉山正和 『淡青』46号「GX入門/身近な疑問vs東大」
6月23日	本部広報課	日本のジェンダー・ギャップ指数(2023年)について(総長メッセージ)
6月23日	理学系研究科・理学部	2023年ウルフ賞授賞式 菅裕明教授に化学部門賞授与
6月26日	総合文化研究科・教養学部	超域文化科学専攻の國分功一郎教授が第11回河合隼雄学芸賞を受賞
6月28日	本部学生支援課	漕艇部双青戦(京大戦)において東京大学が大勝利!
6月29日	大気海洋研究所	道田豊教授がユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)議長に選出
6月30日	本部学生支援課	自転車部競技班篠崎選手が全日本学生選手権個人ロードレース大会にて優勝!
6月30日	宇宙線研究所	ハイパーカミオカンデ実験の予算検討会議の第7回会合に15カ国が参加
6月30日	情報理工学系研究科	「情報理工学で創造的展開を目指す」をマイクロソフトと共同で開催
7月5日	産学協創推進本部	新興出版社啓林館と東京大学がスタートアップ支援に関する基本協定を締結
7月5日	工学系研究科・工学部	「東大×生成AIシンポジウム」を開催 生成AIが切り拓く未来と日本の展望
7月6日	本部人事企画課	令和5年度名誉教授の称号授与
7月11日	本部学生支援課	第62回全国七大学総合体育大会(七大戰)開会式を安田講堂にて開催!



## CLOSE UP ハイパーカミオカンデ計画について議論し現地を視察 (宇宙線研究所)



↑会場の伊藤国際学術研究センターの前にて。  
←HKの大空洞を視察する一行。

2027年の実験開始を目指して建設が進められるハイパーカミオカンデ計画(HK)について、実験に参加する関係各国が参加する第7回予算検討会議(HKFF)が6月7日、本郷キャンパスで開かれました。HKFFは、2019年6月の第2回以降、COVID-19の感染拡大の影響でオンラインのみで開催されており、対面で行うのは4年ぶり。日本を含めて15カ国(オンライン参加を含む)から政府機関関係者および研究者を加え約60人が参加し、計画の進捗や今後新たに必要となる予算などを

を確認しました。次世代ニュートリノ科学連携研究機構(NNSO)の梶田隆章機構長、藤井輝夫総長、高エネルギー加速器研究機構の山内正則機構長、文部科学省大学研究基盤整備課の黒沼一郎課長が挨拶し、宇宙線研究所の中畑雅行所長と塩澤真人教授が報告と協力要請を行いました。翌日には一行が岐阜県飛騨市神岡町に移動し、地下に掘り進められたアクセストンネルや、検出器を設置するための大空洞上部のドーム部分を視察。そのスケールの大きさに驚きの声が出ました。



## CLOSE UP 情報理工学でのキャリア形成を考えるイベントを開催 (情報理工学系研究科)



パネルに登壇した(左から)日本マイクロソフトの小松璃子さん、マイクロソフトディベロップメントの藤原良樹さん、山肩洋子准教授、鳴海拓志准教授。

情報理工学系研究科「創造的展開プロジェクト」は、6月17日にマイクロソフトリサーチアジアと共催で、大学生や大学院生を対象とした情報理工分野でのキャリア形成や最新の研究成果を伝えるイベント「情報理工学で創造的展開を目指す——マイクロソフトと考えるキャリア形成と先端情報学——」を、本郷キャンパスの山上会館とオンライン配信のハイブリッド形式で開催しました。

イベントは須田礼仁研究科長の挨拶で幕を開け、5名の登壇者によるスピーチセッ

ション、パネルディスカッションに続き、マイクロソフトの最新の技術を伝えるテクノロジーセッションが催され、会場参加、オンライン参加をあわせて100名を超える参加者が、多様なフィールドで情報理工分野の専門を活かして活躍する登壇者の話に耳を傾けました。参加者からは「企業に勤務しながら博士号を取る、企業から大学に転職するなど様々な選択肢があることがわかり参考になった」、「情報分野で活躍している女性の先輩の話が聞けて良かった」などの声が聞かれました。



**CLOSE UP 「東大×生成AIシンポジウム」を安田講堂で開催** (工学系研究科・工学部)



左上から、岸田首相、西村経済産業相、松本総務相、ソフトバンクの孫会長。シンポジウムの動画が視聴できます→ <https://www.t.u-tokyo.ac.jp/ev2023-07-04>

7月4日、東大×生成AIシンポジウム「生成AIが切り拓く未来と日本の展望」が安田講堂にて開催されました(工学系研究科とTMI総合法律事務所による共催)。

藤井輝夫総長がビデオ収録のメッセージで開会を宣言した後、岸田文雄 内閣総理大臣が祝辞で登壇。生成AIという新しい技術を日本がどのように利用すべきかというビジョンを語り、会場の学生と質疑応答も行いました。

第1部「生成AIが切り拓く未来」には西村康稔 経済産業大臣、孫正義 ソフトバンクグループ代表取締役会長、OpenAIのシェイン・グロウ氏、工学系研究科の松尾豊教授が登壇。第2部「行政機関(政府・自治体)における生成AIの利用と課題」には村井英樹 内閣総

理大臣補佐官、UTECの郷治友孝氏、経済産業省の須賀千鶴氏、川原圭博 工学系研究科教授が登壇(司会は境田正樹 元理事)。第3部「広島AIプロセスについて」には松本剛明 総務大臣、須藤修 中央大学教授、シナモンAIの平野未来氏、法学政治学研究所の宍戸常寿教授が登壇。第4部「生成AIと研究・教育」には、西條正明 文部科学省大臣官房審議官、TMI総合法律事務所の柴野相雄氏、グーグル・クラウド・ジャパンの下田倫大氏が登壇しました。4つのパネルディスカッションでAIが社会にもたらす変革とその本質が議論され、人間社会の新たな未来像が示された後、加藤泰浩 工学系研究科長が挨拶を述べ、4時間を超えるシンポジウムを締めくくりました。



**CLOSE UP 道田豊教授がユネスコ政府間海洋学委員会議長に** (大気海洋研究所)



新議長に選出された道田先生。

6月21日～6月30日にユネスコ本部(パリ)にて開催された政府間海洋学委員会(Intergovernmental Oceanographic Commission: IOC)第32回総会において役員選挙が行われ、次期役員の議長に道田豊 大気海洋研究所教授が選出されました。

IOCは、世界の海洋に関する調査、観測、データ交換、途上国支援プログラム等につい

て政府間協力や企画、調整等を行う、国連における唯一の機関で、ユネスコ内に機能的独立性を有する組織として1960年に設立されました。現在、150か国が加盟しています。

日本人が議長を務めるのは、1960年のIOC発足以来初めてのことです。道田議長の任期は2025年6月下旬に開催される次回総会の終了までの約2年間となります。



**CLOSE UP 菅裕明教授がウルフ賞(化学部門)を受賞** (理学系研究科・理学部)



6月15日、イスラエル国会議事堂(エルサレム)にて2023年ウルフ賞の授賞式が開催されました。

化学部門では、本学理学系研究科の菅裕明教授(写真中央)、米国スクリプス研究所のJeffery W. Kelly博士(写真左)、米国シカゴ大学のChuan He教授(写真右)の3名が受

賞しました。菅教授は「生物活性ペプチドの創製を革新するRNA触媒の開発」に関する業績が認められての受賞です。

日本人研究者によるウルフ賞化学部門の受賞は、野依良治名誉教授(名古屋大学)、藤田誠卓越教授(東京大学)に続き3人目となる快挙です。誠にありがとうございます。



**CLOSE UP 自転車、ヨット、アメフト、漕艇の各競技で学生が躍動** (本部学生支援課)



七大戦では、13競技終了時点で総合得点77点と東大が暫定1位に立っています!

6月11日に行われた第38回全日本学生選手権個人ロードレース大会において、本学自転車部競技班4年生の篠崎蒼平選手(工4)が見事に優勝しました。学生ロードレースで最も大きな大会の一つです。出走した111名の選手たちは、長野県木祖村に設けられた計154kmのコースに挑みました。篠崎選手は、最終周回を終えてゴールへの1kmの登りに突入した時点でメイン集団から抜け出し、2位以下に大差をつけてゴールしました。篠崎選手は「有力選手に先行されてしまう難しい展開でしたが、うまく立ち回り最後まで力を残すことができました」と述べています。

一方、6月10日～6月11日に江の島ヨット

ハーバーで行われた関東学生ヨット個人選手権大会(スナイプ級)では、ヨット部ディンギー班が活躍し、全日本学生ヨット個人選手権大会への出場権を獲得。3艇の出場権獲得は初の快挙です。5月14日に調布のミノバイタルフィールドで行われたアメフト双青戦では東大が20-14で京大に7年ぶりに勝利し、6月25日に戸田ポートコースで行われたポート双青戦でも東大が対校3種目において勝利。

淡青色のアスリートたちが各々の持ち場で活躍する中、7月8日には東大が主管を務める第62回全国七大学総合体育大会(七大戦)の開会式が安田講堂で行われました。第55回大会以来の総合優勝を、やらいでか東大!



## 体験型教育

近年、大学教育において課外活動などの正課外教育の重要性を評価する傾向にあります。課外活動を通じて、社会生活に必要な主体性やコミュニケーション力などを身につける機会が提供されることによるものです。私にとっても、大学4年間の運動部での活動で社会性が鍛えられたと振り返って思います。近年では、インターンシップ（就業体験）を単位認定する大学もあり、実社会での体験型教育も重視されています。

専門課程の実習などで社会体験を取り入れた教育が行われていますが、本学で体験そのものを目的とした教育が取り入れられるようになったのは、教養学部前期課程の正課として、国立大学法人化の頃に全学体験ゼミナールが新設された時ではないかと思います。これは2003年から2005年にかけて教養学部長を務められた浅島誠先生の発案によるものです。浅島先生から大学演習林を活用した体験プログラムの提供について相談を受け、総合科目での試行を経て全ての地方演習林で開講するようになりました。

現在では課外活動の位置づけで多様な体験型教育プログラムが、学部生だけでなく大学院生も対象に提供されています。本学教員

が提供するプログラムに加え、地方自治体や企業、同窓生の支援を受けて国内外で多数のプログラムが実施されています。例えば、地方自治体の課題解決に取り組むフィールドスタディ型政策協働プログラムや本学と協創事業を行っている企業の海外拠点での東京大学グローバル・インターンシップ・プログラムなど、いずれも充実した内容となっています。

私は、2021年4月から体験型教育プログラムを所掌している社会連携本部に副本部長として関わるようになり、体験型教育プログラムが多くの教職員の尽力によって支えられていることを改めて実感しています。2011年の東日本大震災の際にも、多くの教職員が学生を巻き込んで復興支援に参画し、また学生のボランティア活動にも大学から支援が提供されました。体験型教育プログラムやボランティア活動などで社会と関わりを持つことをきっかけとして、社会課題に関心を持ち、継続的に社会活動する学生が増えることを期待しています。

丹下 健  
(農学生命科学研究科)

